様式１　　平成２８年度　宇陀市立　菟田野中学校　学校自己評価書

教育目標	「自らの成長を実感できる学校」～生徒の人間力向上～
運営方針	教職員を適材適所に配置し、組織的に学校運営・学校経営を行うとともに、保護者や地域とともに学校を活性化させる。
前年度の成果と課題	【課題】職員の世代交代【成果】学校文化の継承と発展
本年度重点目標	・職員研修（学力向上、授業改善、家庭学習の充実・・全国学力学習状況調査をうけ、本校の強みと弱みを点検し全教科で指導方法の改善に向けて取組を行う） ・小中連携（職員研修や教科指導における連携をめざす）

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	生徒アンケート	生徒評価	保護者アンケート	保護者評価	教職員アンケート	教職員評価	小項目の評価	中項目の評価	評価の観点・理由	課題・改善方策
Ⅰ 教育活動に関するもの	(1)教育目標 教育課程 学校評価	①　教育目標の設定					教育目標を知っている。	3△↑	教育目標を知っている。	5		A	・シラバスの活用は十分できていないが課題である。 ・授業研究や職員研修で教員の指示の明確さや授業改善が図られている。少しずつではあるが、『分かりやすい授業』が生徒には伝わってきているが保護者へ学校側の取組を伝えていきたい。 ・評価に関しては、説明責任が果たせるよう資料を用意していきたい。	・学習内容定着のため、家庭学習の習慣化を生徒に促す。 ・できた達成感、できそうな見通しを立てた授業づくりを進め自己肯定感を高めた授業づくりを徹底する。・授業のＵＤ化を全教科で「わかりやすい」授業の徹底（難しいことを易しく（優し））。・学習規律の徹底 ・小中連携を深め、生徒の学習上の課題を共有化する。
		②　教育計画の作成												
		③　教育課程の編成												
		④　教育活動の評価												
	(2)学習指導 ［教科・総合］	①　学習指導計画の立案	生徒の実態に沿った目標の設定と新指導要領に基づくシラバスの作成に取り組む。	シラバスを作成する。			シラバス(学習の仕方、評価の仕方など)を活用しているか。	2			C			
		②　学習内容の精選												
		③　指導方法の工夫改善	学習規律を整える。	学習に向かう態度を整える。	教科書等持って帰らなければならない者は、毎日持って帰っていますか。	4↓			授業開始時には、学習に臨む準備や態度を整わせてから授業を行っている。	5	A			
					チャイム着席はできていますか。	4								
				「聞くところ」「書くところ」の指示を徹底する。	授業中、先生が説明しているときは、私語なく集中していますか。	4			「聞くところ」などの指示を明確にし、生徒の行動を確認してから次の指示を与えている。	5↑				
			わかりやすい授業を行う。	できるだけ具体物を使って授業を行う。	授業はわかりやすいですか。	3↑	授業がわかりやすいと言っていますか。	2	具体物や資料などを使って授業している。	4↓	A			
				授業研究をする。					授業では、できるだけポイントを整理して指導するようにしている。	5↑				
									自分にしかできないことや一工夫を継続的に行っている。	5↑				
				家庭学習をさせる工夫を行う。	家庭での学習をしていますか。	3△	子供は家庭学習をしていると思う。	3△↑	家庭学習では、生徒が取り組みやすい提示や具体的な指示をしている。	4↑				
		④　評価	生徒の学習状況を的確に評価する。	評価基準を明確にして評価する。	適切に学力や努力が評価されていると感じますか。	3	子供の学力や努力が適切に評価されていますか。	3○			B			
	(3)道徳□ 特別活動	①　指導計画の立案										B	・学校行事の内容の点検・改善が急務である。 ・部活動は、生徒の学校教育活動上大変意義深いものととらえている。	・行事のマンネリ化をなくし、菟田野がめざしてきたことの確認をすすめ、生徒の自主性・主体性を高めていく取組を進めていかなければならない。 ・生徒数が減少する中で、部活動の存続が難しくなっているのが現実である。また、体育部を中心として団体種目ばかりなので部活動に入らない生徒が増えている。
		②　道徳の時間の充実												
		③　学級活動・学級経営	生徒の自主的な活動を進める。	生徒の自主的･主体的活動を生かすような工夫を行っている。	学級の一員として、意見を述べたり･行動したりしていますか。	3			学級指導では生徒の自主的･主体的活動を生かすような工夫を行っている。	4↑	B			
		④　学校行事	目的を明確に表し、安全を第一として活動を進める。	行事で生徒が自主的･主体的な活動になるように工夫している。	学校行事に積極的に参加しましたか。	3○↓	子供は学校行事に積極的に参加している。	5↑	学校行事の内容等の改善を行っている。	3○↓	B			
		⑤　児童･生徒会活動の活性化	生徒の自主的な活動を進める。	生徒が自主的･主体的な活動になるように工夫している。	生徒会、福祉委員会等で積極的に活動しましたか。(委員への協力ができましたか。)	4			生徒が自主的･主体的な活動になるように工夫している。	4	A			
		⑥　クラブ・部活動の活性化	部活動を通じて、人間力向上をめざす。	生徒が意欲を持って楽しく活動が行われている。	部活動は楽しいですか。	5	子供は部活動を楽しんでいる	5	生徒が意欲を持って活動するように取り組んでいる。	4	A			
					部活動には意欲を持って取り組めましたか。	5	子供は積極的に部活動に参加している。	5						
	(4)人権教育	①　人権教育指導計画の立案	本校の人権教育における課題を明確にし、指導計画を立てている。	人権教育指導計画を作成する。					人権教育指導計画は本校の実態をふまえたものになっている。	4↑	A	A	･教育課題を明確にして計画的に指導する。 ･重点目標に取り組むための指導教材を人権教育部として提供することが出来なかった。 ･研究授業を通じて指導者としての力量を高めることが出来た。	・研修会議を開き、指導者が互いに力量を高めたり連携できるような仕組みを構築する。 ・校外での研修会や研究会の情報を校内にも伝えていく。 ・重点目標についての共通理解を深める
		②　学習内容の精選	重点指導教材を決め、計画的に取り組んでいる。	重点指導教材をきめ、計画的に実践している。					重点指導教材をきめ、計画的に実践した。	4↑	A			
		③　指導方法の工夫改善	生徒の実態にあった題材の選択や心情に訴えかける授業づくりができている。	生徒の実態にあった題材を選択し、工夫した授業を心がける。	あなたは学級の一人として協力し、また仲間からも大切にされてますか。	4	学校は、一人ひとりを大切にする教育に重点をおいていると思いますか。	3○↑	人権学習の内容･授業の様子などを教師間で交流しながら進めている。	5↑	A			
									人権教育公開授業研究は授業改善に役立った	4	A			
	(5)食育	①　食育の全体計画の立案										B		
		②　学習内容の精選												
		③　指導方法の工夫改善			給食当番の仕事を果たしましたか。	5↑								
					給食を残さず食べていますか。	4↓	子どもは好き嫌いをしないで食事をしていますか。	4						
	(6)生徒指導	①　組織的な生徒指導	全教職員が統一した指導･指示を行う。	生徒指導部を中心にしながら、組織的な指導を行う。	あいさつは出来ていますか。	5	学校の決まりを知っていますか。	4	学級･学年間で統一した生徒指導に心がけた。	4	A	B	・多くの生徒が制服で授業を受けるようになってきている。学校生活に臨む態度や意識が向上してきている。しかしチャイムで行動を切り替えることは、まだできていないのが現状である。 ・「朝読の時間の活用」については、改善がなされてきている。 ・携帯・インターネットによるトラブルを防止するため利用上の注意に関する講演会については、全校生徒を対象として実施した、保護者に対しては、新入生保護者会で実施した。	・全教職員が共通理解のもと誰に対しても同じ指導をしていく。そのためにも、ルールや基準の明確化を更に行っていくとともに、出来るだけ例外がないような学校規律が必要である。 ・１日の始まりとして、「朝読」を更に大切にする。 ・学校生活の中で生徒とのコミュニケーションを大切にし生徒との人間関係を築きあげていくことに努める。 ・学年だけの教師の連携ではなく全教職員がチームとして機能できるよう生活指導、相談活動を徹底していきたい。
					制服をきちんと着用していますか。	5↑		4						
					朝読の時間を有効活用していますか	4↑	子供は学校の決まりや交通ルールを守っている。	4	生徒が朝読の時間を有効活用できるように支援している	4				
		②　問題行動の指導	問題行動に関して迅速な対応を行う。	「学校経営案」の生徒指導対応マニュアルに従って取り組みを行う。					問題行動に対して、迅速な対応ができた。	4↑	A			
		③　教育相談・児童生徒理解	生徒との関わりを深める。	生徒の様子に配意するとともに、生徒の声に耳を傾け、思いや願いを的確につかむ。	先生は生徒の様子をよく知っていると感じますか。	3↑			休み時間や放課後など、生徒と話すことを大切にしている。	5↑	A			
			不登校生徒をなくす。	不登校生徒の解消に向けて取り組みを行う。							B			
		④　家庭との連携	生徒の生活の様子や変化などを的確に家庭に伝える。	電話連絡より家庭訪問を大切にする。			子どもの生活等について、学校に気軽に相談できる。	3			B			
		⑤　関係機関との連携	関係機関と連絡を密にして、早期対処･未然防止を図る。	関係機関、4中合同会議を定期的に開く。							B			
	(7)進路指導 キャリア教育	①　組織的な進路指導										A	・夢の実現に向けた取組を進めている。 ・三年生は、特に進路に向けて二者懇談を開き生徒の考えの聞き取りを進め適切な進路指導が進むよう努めている。	・三年間の系統づけた進路指導にまでは至っていない。それぞれの学年において、発達段階に応じた取組を進めている。今年度は、生徒・保護者共に評価を開けている。
		②　勤労観・職業観に関する指導	将来に繋がるような勤労観、職業観を育てる。	『夢』をもつこと、追うこと、実現することの意味を考える。	(2年)職場体験学習の内容は充実していましたか。	5↑					A			
		③　指導方法の工夫改善												
		④　進路相談	出口指導に終わらず次のステージでの姿を想像し親身に相談活動を行う。	生徒の様子に配意するとともに、生徒の声に耳を傾け、思いや願いを的確につかむ。	(3年)自分の進路や将来について、先生と充分に話し合うことができましたか。	3○↑					B			
		⑤　家庭との連携	保護者と子どもの意見を調整する。	生徒の様子に配意するとともに、生徒や保護者の声に耳を傾け、思いや願いを的確につかむ。			子どもの生活等(進路を含む)の相談では、教職員は丁寧に対応しましたか。	4↑			A			
		⑥　関係機関等との連携												
	(8)特別支援教育	①　組織的な特別支援教育	特別支援学級生徒の特性を教職員全員が理解し、その特性を踏まえた指導を行う。	特別支援学級生徒の特性を理解･把握する。					特別支援が必要な生徒について共通理解ができている。	5↑	A	A	・職員会議等を通して、教職員が共通理解し、支援学級、交流学級の担任、支援員ともに連携した指導を行うことができた。 ・定期的な保護者会を開き、保護者との連絡を密にすることができた。（全教職員参加） ・支援が必要な生徒の実態に応じて各教科の授業を更に工夫する必要がある。	・支援が必要な生徒について今後も教職員が共通理解を深め、保護者ともに連携した指導を進めていく。 ・特別支援が必要な生徒の実態に応じて教科の授業にユニバーサルデザインを更に取り入れてゆく。
		②　個別の指導計画の策定	個別の指導指導計画を策定する	個別の指導計画を策定する							A			
		③　個別の教育支援計画の策定	個別の教育支援計画を策定する	個別の支援計画を策定する							A			
		④　指導方法の工夫改善	授業の焦点化･簡素化･明確化をはかる	個々の生徒の実態に応じた指導の工夫を行う							B			
		⑤　家庭との連携	家庭との連携を深める	定期的に保護者会を行うとともに、日々の相互連絡を密にする。							A			
		⑥　関係機関との連携	関係機関と連携する	関係機関と連携する										

様式２　　平成２８年度　学校自己評価項目（学校経営）

学校名【菟田野中学校】

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	生徒アンケート	生徒評価	保護者アンケート	保護者評価	教職員アンケート	教職員評価	小項目の評価	中項目の評価	評価の観点・理由	課題・改善方策
Ⅱ学校経営に関するもの	(1)組織運営	①　校長のリーダーシップ	リーダーシップを発揮している	目標や方針がぶれずに運営が進める。					校長は、リーダーシップを発揮し組織運営を進めている	5	A	B	・職場の人間関係を円滑に行う。 ・組織として動くために、個々の役割が理解され機動しているかを確認していんなければならない。	・さらに気軽に話し合える職場環境を整える。 ・校務をさらに明確にしてそれぞれの仕事の内容が分かりやすく、実際に行動しやすいように校務分掌の見直しを進めていきたい。
		②　学校経営目標・方針	グランドデザインを作成する	経営方針を明らかにし取組を進める。					グランドデザインは分かりやすい。	５↑	A			
		③　教職員の適正配置と運営への参加意識	適材適所に教職員を配置している	若手教員を積極的に登用する（主任等）					校務分掌では自分の役割を果たしている。	4	B			
		④　校務分掌等の連携												
		⑤　会議の運営												
		⑥　会議の結果												
		⑦　職場の人間関係	職員室で教科や生徒の事について課題を出し合ったり悩んでいることを気軽に話ができるか。	気軽に話が出来る空間作りに努める。					日々の教育活動における課題や悩みについて、気軽に話し合えますか。	4	B			
	(2)研究・研修	①　研修の組織･計画･実施	校内研修が計画的・効果的に行われている。	校内研修を計画的・効果的に行う。							A	A	・学力向上研修と研究授業を年間４回持つことができた。教員の意識の変化が大きな成果ととらえている。また、学力向上研修に対して肯定的な回答を行うとともに、各自の授業改善に生かしているところを評価したい。 ・人権教育授業公開は年３回行ったが、肯定的に回答した割合が約七割にとどまった	・本校生徒の（学力学習状況調査等から）国語、数学、生活実態調査から見えてきた（強みと弱み）を分析し、全ての教科、領域で言語活動の取組（読む力。書く力。話す力。）を育成していく。 ・授業の変化（授業のＵＤ化、ＩＴＣ教材の利用） ・家庭学習の定着（時間の設定と、宿題の内容） ・授業規律の徹底（チャイム着席、チャイムチョークの実践）
		②　校内研修	校内研修は教職員の資質を高めるため効果的に行われている。	校内研修は教職員の資質を高めるため効果的に行う。					学力向上研修で学んだことを生かして授業改善を行った	5	A			
									生徒の実態に応じた教材を工夫している。	4	A			
		③　授業研究	授業研究は教職員の授業力を向上させるため効果的に行われている。	授業研究は教職員の授業力を向上させるため効果的に行う。					人権教育授業研究は役だった。	4	B			
		④　校外の研修への参加												
		⑤　研修成果の普及												
	(3)安全管理	①　危機管理体制の整備												
		②　学校防災計画の立案	防災計画を作成する	年間２回訓練を実施する										
		③　安全指導の工夫改善												
		④　家庭との連携	携帯、スマホの有効利用について家庭に発信する	携帯、スマホ講習会を開催する。			子どもと携帯、スマートホンの使い方について家庭で話している	4						
		⑤　関係機関との連携	生徒指導、学校行事等に関わって適切に連携を深めている	警察、消防署、中央児童相談所、医療機関等との連携をすすめる。										
	(4)保健管理	①　学校保健計画の立案												
		②　心のケアや健康相談体制の整備	教育相談係とＳＣが連携を進め、相談体制を整えている。	年二回教育相談（学級担任）を実施している	心配事や悩みなどを気軽に打ち明けることができますか。	2			生徒のＳＯＳサインに対して、適切に相談体制をとっていますか。	4				
		③　健康観察、健康管理能力の育成							日々の健康観察・保健指導を、養護教諭と協力して適切に行っていますか。	4				
		④　学校給食の衛生管理												
		⑤　関係機関との連携	学校行事等に関わり適切に連携を深めている。	菟田野保健センター・室生福祉保健交流センターとの連携をすすめる。	（２年）育児体験活動の内容は、良かったですか。	５↑								
	(5)保護者・地域との連携	①　学校情報の発信	学校情報を保護者や地域に積極的に発信している。	学校便りを毎月発行する。			学校便りや学年便りによって学校の様子がよくわかる。	４↑			A	A	・学校便り等については約八割が、メールについては約九割が肯定的回答をしている。 ・授業参観の回数については、昨年と同様約九割が肯定的回答をしている ・ＰＴＡ活動については、肯定的回答が約五割程度にとどまった。	・今後も、プリント案内するものはメール配信もすることを継続してゆく。また、学校ＨＰも活用していきたい。 ・メール未加入家庭の割合が大幅に減った。 ・ＰＴＡ活動への積極的参加・協力を粘り強く役員とともに行ってゆく。
				緊急メールを活用する。			行事等について学校からの配信メールが役立った。	5			A			
		②　学校(授業)公開	学校（授業）公開を適切に行う。	学校(授業）公開の回数や方法を保護者アンケートの結果により見直す。			授業参観の回数（５月、１１月、１月）は適切である。	4			A			
		③　家庭・地域との連携												
		④　ＰＴＡの活性化	PTA活動が学校に協力的であり、活発に行われている。	PTA活動が主体的な活動となるよう支援する。			PTA活動に積極的に参加している。	３△			B			
		⑤　校種間連携												
		⑥　学校評議員の活用	学校評議員会を定期的に開催する。	学校評議員会を年３回開催する。							B			
		⑦　学校安全会議の活用												
	(6)教育環境整備	①　教育環境の整備	教育環境が適切に整備されている。	生徒が落ち着いて学習できるよう日々環境整備を行う。	掃除時間は時間いっぱい熱心にしている。	４↑			清掃（給食当番）時は率先して掃除活動を行っている。	5	A	A	・教職員の教育環境整備意識・率先垂範意識に向上が見られた。 ・教材教具の活用については、約九割が肯定的な回答をしている。 ・備品点検整備については、肯定的回答をした者が昨年の約五割から約八割に向上した。	・「環境が人を作る」という信念の下、今後とも教職員が率先垂範するとともに環境整備に努力を続ける。 ・教職員の意識の向上・行動実践が、生徒の行動にもつながっているように感じる。今後も、「継続は力」を旨として息の長い取組・指導を行っていく。
					学校ではゴミをしないように心がけている。	４↑			毎日生徒が下校した後や退室した後、教室環境を点検整備している。	４↓				
									修理が必要なものを見かけたときには、自ら修理したり管理職に告げたりしている。	5				
		②　施設設備の有効利用												
		③　教材教具の整備	教材教具を有効に活用している。	教材教具を有効に活用する。					教材備品を授業等で有効に活用している。	５↑	A			
			教材教具を常に整備する。	備品管理台帳に基づき点検管理を行う。					備品台帳に基づき教材備品等の点検整備を行った。	4	A			
		④　施設設備・教材教具の管理												
	(7)情報管理	①　公文書の収受・保管	公文書が適切に整備されている。	事務職員が点検を行う。					公文書は案件が済みしだい、速やかに文書取扱者に戻している。	4				
		②　公文書の作成	公文書が適切に作成されている。	管理職が点検を行う。					文書の作成については複数人で確認し、管理職の最終チェックを受けている。	4				
		③　個人情報の管理・保護	個人情報の管理を行っている。	個人情報の管理徹底を呼びかける。										
									個人情報の持ち出しはしていない。	5				
		④　情報の収集												

様式３　　平成２８年度　学校関係者評価書

学校名	宇陀市立菟田野中学校
評価者名	峯畑忠郎（学校評議員）、森本和加子（学校評議員）、小泉和仁（学校評議員）
実施日	平成29年3月9日

大項目	中項目	達成状況・取組状況について		取組の適切さについて	改善方策について
Ⅰ教育活動に関するもの	教育目標・教育課程・学校評価		①学習指導について ・学力向上研修を通じて、先生方の意識がかなり高まっていることを期待する。 ・学習規律については、特に１・２年生での改善が見られるので今後が楽しみである。 ③人権教育について ・地域教材等にも取り組んでいると聞いたが、新たな展開として期待する。 ・重点教材の確認・定着をして欲しい。 ④生徒指導について ・制服登校が定着しつつある。 ・生徒の様子については、教師と生徒の感覚に乖離が見られる。 ⑥特別支援教育 ・「保護者会」等での連携が効果的なように思う。 ・小さな学校なので職員全員での共通認識がより求められる。 ・生徒個々に応じた指導をしていただいている。	②道徳　特別活動について ・道徳の教科化に向けた対策を進めて欲しい。 ・道徳の授業を通じて子どもの心を耕す指導を進めて欲しい。 ④生徒指導 ・ルール等、基準の明確化は必要である。菟田野中学校の良い面と言うだけでは、対応できない時代になってきている。 ⑤進路指導・キャリア教育について ・生徒の意識が高まっている。 ・三年間、系統づけた指導を進めていただきたい。	①学習指導について ・生徒の自己肯定感を高める授業づくりを是非、進めて欲しい。 ・学習規律については、今後も粘り強く取り組んで欲しい。 ・補習などの工夫をしていただいている。意識の変化がうかがえる。 ・家庭学習の重要性を伝え、学習の仕方を具体的に教えてあげて欲しい。 ③人権教育について ・是非、今の現状を見据えた取組を進めていただきたい。 ④生徒指導について ・ルール・基準の明確さ、例外を極力少なくしていくことで生徒に公平感が生まれる。そのためにも先生方一人一人が自覚して取り組んで欲しい。 ⑥特別支援教育について ・さらに生徒の実態を把握し、共通理解のもと保護者との連携を大切にした取組を御願いしたい。
	学習指導［教科・総合］	A			
	道徳　特別活動	B			
	人権教育	A			
	食育				
	生徒指導	B			
	進路指導・キャリア教育	A			
	特別支援教育	A			
Ⅱ学校経営に関するもの	組織運営	B	①組織運営について ・管理職がリーダーシップを発揮し運営を進めいるようなので安心した。 ・若手を積極的に登用することは今後の事も考え、大切なことである。しっかりと個々の能力が発揮できるよう育てていただきたい。 ②研究研修について ・学力向上推進校の指定を受け、研修をすすめていることは良いことである。 ・昨年度、無かった教科授業研究が本年度は、複数教科で実施されたことは良いことである。 ③保護者・地域との連携について ・学校からのメール等は非常に活用されているようだ。 ・学校ホームページも充実しているように思う。 ④教育環境整備について ・先生方が非常に頑張っていただいているようだ。	・生徒たちは本当に挨拶をよくするようになった。気持ちが良い。 ・全体的に地域での評判は良いと聞いている。	①組織運営について ・校務分掌を分かりやすく各自の役割が果たせるような仕組みを考えて欲しい。 ・随分改善されているようだが、さらに職員室が気軽に話せる本来の場になるようにして欲しい。 ②研究研修について ・『分かりやすい』授業を展開するのに教員の日頃からの授業研究を充実させて欲しい。 ③保護者・地域との連携について ・PTA活動が一部の活動とならないように注意して欲しい。 ・細かい情報が確実に保護者のもとに届くようにして欲しい。 ④教育環境整備 ・先生方が非常に一生懸命、目に見える形で動いてくれている。粘り強く取り組みを進めて欲しい。
	研究・研修	A			
	安全管理				
	保健管理				
	保護者・地域との連携	A			
	教育環境整備	A			
	情報管理				

【その他学校に対する意見】

・特になし。